

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【教育科学系】

e-learningによるテストの得点, レポートの完成度, レポートを提出する際の送信メールの適切性, グループ課題への取り組み, 出席率, 以上のそれぞれに重み付けを施した値を合算したものを総合評価とした。

個人点として、出席、メールやワード課題、振り返り、行動計画、テストの点数、グループ課題として、グループで提出した課題の評価を合わせて成績評価を出しました。

出席状況(50%)、文献のまとめの発表と討議(コメント記述含む)(30%)、および最終レポート(20%)を総合して評価した。

出席状況, 発表, 最終レポートに基づいて。

出席状況50%、発表30%、最終レポート20%
・出席: 無断欠席の場合 = -2点(1回につき)
・発表: 報告18点(レジュメ10点、発表・質疑応答8点)
コメント2点×6回(1回ごとに3点満点で評価し、後に2点に換算)
・最終レポート: 20点 (1,600字~2,400字)

主にはレポート発表の内容とプレゼン・聴講態度から評価した。

授業中の態度や意欲、レポートの優劣などから総合的に評価した。

現代的課題

期末に行った本試験及び追試験の得点により評価した。追試験は、本試験で60点未満の者に行った。また、本試験の得点はそのままの点数を、追試験受験者に対しては、 $(\text{追試験の得点} - 60\text{点}) \div 4$ を60点に加えた点数を、成績として報告した。

期末に行った本試験及び追試験の得点により評価した。追試験は、本試験で60点未満の者に行った。また、本試験の得点はそのままの点数を、追試験受験者に対しては、 $(\text{追試験の得点} - 60\text{点}) \div 4$ を60点に加えた点数を、成績として報告した。

5, 6回の課題のレポートの成績を合計して成績をつけた。2回のレポートは授業の終わりに課題の用紙を配布した。従って、その時に出席していなかったものは、用紙が無いので、提出は友人からコピーして提出する

生徒もいたが、それらは減点して採点することにした。

まじめに取り組むものもいたが、友人のレポートをコピーしたと思われるレポートも散見される。この辺りがレポート課題の問題点と言える。

最終レポートは個人のオリジナリティを問う課題であったが、サンプルそのままを写しただけのレポートも多い。

授業中に提出した小レポートの内容と、プレゼンテーションにおける発表内容の創意工夫、そして期末レポートの内容を加味して総合的に判定した。形式面で提出物などが整っていたとしても、内容面で創意工夫が見られない場合は不可と判断した。